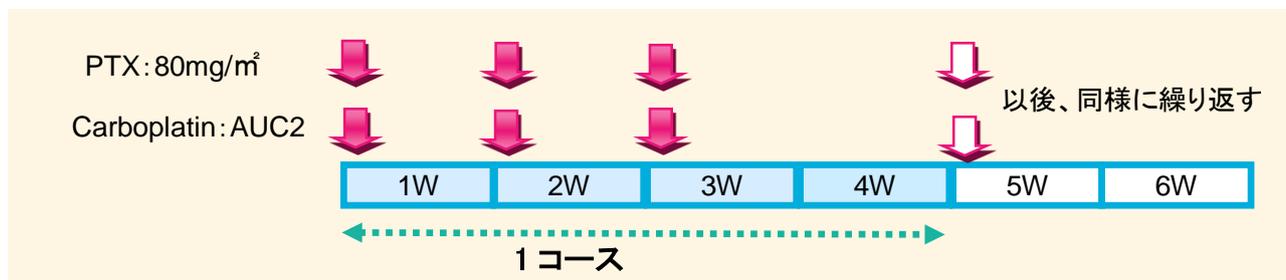


肺癌

対象疾患: 肺癌(小細胞肺癌)

## 【0702】PC 療法

## 【投与スケジュール】 1コース=28日



## 【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
<b>Day1, 8, 15</b>			
内服	レスタミン錠 10mg	5錠	①投与中内服
①	デカドロン 3.3mg/1mL	3A ※	15分
	ファモチジン静注 20mg/20mL	1A	
	生理食塩液 50mL	1本	
②	グラニセロンバック 3mg/100mL	1本	30分
③	パクリタキセル	80mg/m <sup>2</sup>	60分
	生理食塩液 250mL	1本	
④	パラプラチン	AUC 2	60分
	生理食塩液 250mL	1本	
⑤	生理食塩液 50mL	1本	ルートリンス
<b>Day2-3 9-10 16-17</b>			
内服	デカドロン錠 0.5mg	16錠/日	分2 朝・昼食後

※デカドロンは過敏症状がなければ半量ずつ(最低 1mg まで)減量可

## ＜パクリタキセル＞

インラインフィルター(0.22ミクロン以下)を使用すること

DEHPフリー(もしくはPVCフリー)の点滴セットを使用すること

輸液ポンプを使用する場合は、濾過網の組み込まれた輸液セットは使用しないこと

催吐性	中等度リスク
組織傷害性	パクリタキセル: 壊死性 パラプラチン: 炎症性

代表的副作用	<p><b>パクリタキセル</b>  &gt;10%…骨髄抑制、末梢神経障害、関節痛、筋肉痛、悪心、嘔吐、脱毛、皮疹、爪の変化  &lt;1%…アナフィラキシー、間質性肺炎</p> <p><b>パラプラチン</b>  &gt;10%…骨髄抑制（特に血小板減少）、悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、電解質異常、アレルギー反応</p>
--------	---

## 【注意事項】

(パクリタキセル)

## ☆パクリタキセルのアルコール量

(例)パクリタキセル 100mg 投与の場合

⇒ビール換算で約 168mL (350mL 缶の半分くらい)

- 過飽和状態にあるためパクリタキセルが結晶として析出する可能性があるため、0.22 ミクロン以下のメンブランフィルターを用いたインラインフィルターを通して投与すること
- 点滴用セット等で可塑剤として DEHP を含有しているものの使用を避けること。もしくは PVC フリーの輸液セットを使用すること
- 輸液ポンプを使用して投与する場合は、チューブ内にろ過網（面積の小さなフィルター）が組み込まれた輸液セットは使用しないこと（まれにポンプの物理的的刺激により析出するパクリタキセルの結晶がろ過網を詰まらせ、ポンプの停止が起こることがあるため）
- 本剤は非水性注射液であり、輸液で希釈された薬液は表面張力が低下し、1 滴の大きさが生理食塩液などに比べ小さくなるため、輸液セットあるいは輸液ポンプを用いる場合は以下の点に十分注意すること。
  - 自然落下方式で投与する場合、輸液セットに表示されている滴数で投与速度を設定すると、目標に比べ投与速度が低下するので、滴数を増加させて設定する等の調整が必要である。
  - 滴下制御型輸液ポンプを用いる場合は、流量を増加させて設定する等の調整が必要である。
- 前投薬：本剤投与による重篤な過敏症状の発現を防止するため、必ず前投薬（H1 阻害薬、H2 阻害薬、デキサメタゾン）を行うこと
- 先発品名は「タキソール注射液」です。2017 年 2 月に後発品に採用切り替え

(パラプラチン)

- イオウ元素を含むアミノ酸輸液との配合を避ける
- 生理食塩液等の無機塩類(NaCl,KCl,CaCl<sub>2</sub>など)を含有する輸液に混和する場合は、8時間以内に投与を終了する
- アルミニウムを含む医療器具を使用しない
- 目標AUC値で投与する場合は次の方法で算出する
  - Calvertの式: 投与量(mg/body) = 目標AUC × (GFR+25)
  - GFR: 糸球体ろ過速度

## GFR 上限について ~米国 NCI による警告 October 2010~

血清クレアチニンが異常低値のときは、計算した投与量が過量になるため、Calvert 式へ代入する GFR の最大値は、125mL/min を上限とする  
すなわち、カルボプラチン最大量は以下ようになる。

$$AUC 2 = 300mg$$

レジメン登録承認	2019年4月化学療法委員会
論文名	Results of Phase II Study of Weekly Paclitaxel Plus Carboplatin in Patients With Extensive Small-Cell Lung Cancer With Eastern Cooperative Oncology Group Performance Status of 2, or Age $\geq$ 70 Years
掲載雑誌名	Journal of Clinical Oncology volume22 number 10 MAY15 2004
著者名	Marcus Neubauer et al.